

物流博物館

NEWS VOL. 11

2010年9月30日発行



映画「黄色い車」※(1958年/制作：運輸新聞映画部)より。三輪トレーラの始業点検のようす。

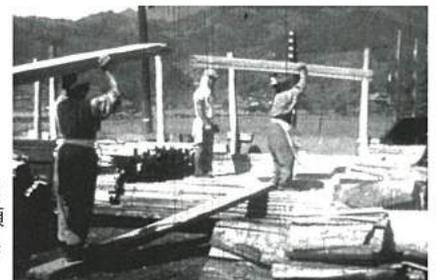
特集 映像でよみがえる過去の物流



映画「300トントレーラ」※(1960年/制作：運輸新聞映画部)より。横浜線橋本駅から17km離れた変電所へ重量207トンのトランス(変圧器)を運ぶ300トントレーラ。日本初の超重量トレーラで、当時は世界一力持ちのトレーラといわれた。高度経済成長にともなう電力需要の増加に応えるため、各地で電力施設の建設が進んだことが、こうした超重量トレーラを登場させた。

過去の映像は時代の証言者といえます。映像には、文章や写真ではわからない情報がたくさん詰まっています。今回は、物流博物館で収蔵している過去の映画作品と、最近進めている映像の修復作業についてご紹介します。

映画「荷役近代化への道」(1966年編集/企画：荷役研究所)より。約100kgの木材を頭上運搬する女性たち(和歌山県・1950年代前半)。



カーゴ君、人気投票で35キャラクター中第8位に!

当館のキャラクター「カーゴ君」がミュージアム・キャラクター人気投票(主催：インターネットミュージアム、投票期間6月17日～7月31日)に参加しました。

みなさまのご声援のおかげで、エントリー全35キャラクター中、なんと第8位(1157票)という結果になりました!まことにありがとうございました。今後もよろしくお願いいたします。

映像の修復でよみがえる戦後の物流史

古いフィルムから立ち上る酸っぱい臭い（酢酸臭）を嗅いだことはないでしょうか？一度この臭いが出ると、フィルムはどんどん劣化が進み、やがて焼きつけられていたはずの過去の映像はこの世から消滅してしまいます。それは大事な記憶を失ってしまうことにほかなりません。

物流博物館では過去に制作された物流に関する映画フィルムを約150点所蔵しています。現在、これらの映像を保存するため作品のデジタル化作業を進めており、今年度までに13作品の修復を完了させる予定です。

当館で保存しているのは主に16mmの上映用ポジフィルムですが、とくにカラー作品は30年も経つと退色して映像が赤く変化してしまいます。修復に際しては、まず映画を作った会社が作品のネガフィルムを保存しているかどうか調査します。見つければネガフィルムを用いますが、発見できなければ現存の上映用フィルムを使い、フィルムの映像をデジタル映像に変換します。その後、キズなどの修正を行い、カラー作品については退色していた色の復元を行います。このような作業は専門業者に委託しますが、高度な技術により色あせたり痛んでしまった映像を鮮やかによみがえらせることが可能となります。デジタル化は映像の複製作業になるため、著作権などに配慮して作業を進めることも必要です。

修復を終えた作品は、当館地下1階の「現代の物流」展示室の「えらべる映像ルーム」の映像ブースでいつでも視聴できるようにしています。また、150インチの大型スクリーンでの上映も希望があれば随時行っています。

※印の作品は全て日本通運㈱が企画した作品です。

映画「物のながれ」※(1949年/制作：日本映画社)より。静岡県・由比付近に行く最初期の長距離路線トラック。



映画「こうして米は運ばれる」※(1959年/産経映画技術研究所)より。



映画「荷役近代化への道」(1966年編集)より。フォークリフト導入期のようす(1950年代前半)。

工場や倉庫など、現在ではさまざまな場所で使われているフォークリフトとパレット。しかし、これらが日本で普及したのは、昭和30年代以降のことです。それまでは貨車やトラックなどの荷物の積み卸し、倉庫への搬入作業などの荷役作業は、もっぱら人力で行われていました。荷役の近代化は荷造り包装にも大きな影響を与え、今日見るような段ボール箱や新素材の包装の普及にも大きな影響を与えました。



映画「荷役はかわる一通運のパレット作業」※(1958年/制作：岩波映画製作所)より。パレットとローラコンベアによる荷役作業。



映画「新しい包装」※(1964年/制作：岩波映画製作所)より。ザルを用いたうなぎの従来型の包装作業のようす。



映画「花開く日本万国博 EXPO'70」※(1970年/制作：電通・電通映画社)より。大阪万博の資材を運ぶ初期の海上コンテナ。

2009年度の物流博物館をふり返って～業務日誌より～

4月	5月	6月	7月	8月	9月
4日 高輪伝馬の会 (古文書勉強会)	16日 高輪伝馬の会	6日 高輪伝馬の会	4,18日 高輪伝馬の会	16,23日 ダンボール工作コーナー 252名	5日 講演会 文書資料と鍛冶遺跡からみた江戸の鉄の流通 37名
18日 幕末明治の鉄生産と輸送II 39名		20日 映像で見る日本のモダニズム建築 32名	25日 講演会 幻の建造船を追って 27名	12～22日 博物館実習 5名	19日 高輪伝馬の会
10月	11月	12月	1月	2月	3月
3,17日 高輪伝馬の会	7,21日 高輪伝馬の会	12日 入館者9万人達成	ミニ企画展 鉄道コンテナ輸送50年	ミニ企画展 鉄道コンテナ輸送50年	～28日 ミニ企画展 鉄道コンテナ輸送50年
24日 ごてんやまファミリーフェスタへ参加		9日～ ミニ企画展 鉄道コンテナ輸送50年	5,19日 高輪伝馬の会	6,20日 高輪伝馬の会	6,20日 高輪伝馬の会
		20日 クリスマス・サンタクロース映画会 65名	16日 高輪伝馬の会	13日 近代文化遺産と産業遺産 41名	7日 親子ミュージアムバスツアー (港区主催)

2010年度・上半期のトピック

蔵出し資料展～日本通運(株)コレクション～開催

前期：4月29日～5月30日 後期：6月1日～7月4日

当館では、日本通運(株)が昭和30年代初めから収集した約7千件の交通・運輸に関する歴史的な資料を収蔵しています。この日本通運(株)コレクションは、代々運送店を営んでいた関係者からの寄贈や、資料購入などにより形成されました。

これらの資料は、日本通運本社ビル内に昭和33年(1958)に設けられた通運史料室(当館の前身にあたる)などに展示・収蔵された後、当館に移管され、現在に至っています。

今回はこれらのなかから、普段は公開する機会の少ない近世・近代の資料約130点を選んでご紹介しました。

勝海舟東海道通行時の人馬帳
慶應2年(1866)6月

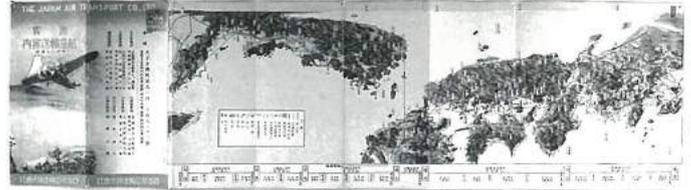
江戸時代の陸上交通は、各宿場で人馬を交替して継ぎ送る伝馬(てんま)制を基本としていました。

史料は勝海舟が慶應2年6月に公用で大坂に向かった際のもので、宿場で馬や人足などを調達した記録です。

一行は乗物(駕籠)1挺(人足4人)、両掛4荷(人足4人)、引戸駕籠1挺(人足3人)、宿駕籠2挺(人足4人)、馬2疋、乗駕籠1挺(人足2人)でした。



旅客航空輸送案内 昭和4年(1929) 日本航空輸送(株)
日本で初めての本格的な航空輸送が行われた際のパンフレット。



展示資料より

初期の郵便箱 明治12年(1879)

宇布見郵便局(現・静岡県浜松市)で明治時代に使用されたもの。「西京方」の文字から上り下りでポストを分けていたことがわかります。

博物館実習生5名を受け入れました

実施期間：8月11～22日

当館では毎年、学芸員を目指す大学生を受け入れ館務実習を行っています。今年は5人の実習生を迎えました。実習内容は開館準備、受付、イベント対応、資料の整理など様々です。なかでも時間をかけて取り組んだのが、展示の「ちょいたし」リニューアル。1階「物流の歴史」展示室にある模型の解説パネルと、地下1階「物流体験コーナー」のサインパネルなどを作成しました。

新しいアイデアでより親しみやすくなった展示を、是非ご覧ください！



美術品の梱包・入門(陶器)編を実施

実施日：8月19日 参加者：31名

壊れやすい壺を包む、美術品の梱包作業体験講座を開催しました。講師は日本通運(株)の美術品梱包の専門家、参加者は主に学芸員を目指す大学生。美術品輸送の業務の概要、特殊な和紙や綿などの梱包資材、美術品を扱う心構えなどについて講義を受けた後、実際に2人1組で壺を梱包しました。

参加者からは「大変面白かったです。プロの実演を見ているだけだと簡単そうに見えて、実際は難しいものだ」と身にしみましたなどのコメントが寄せられました。



なつやすみダンボール工作コーナー、大盛況

実施日：8月14,21日 参加者：209名

毎年人気の工作イベントは今年で11回目。梱包資材であるダンボールを使って、モノを「運ぶ」乗り物=宅配便の集配車・高速貨物船・蒸気機関車・電気機関車=を作りました。キットをもとに、みなさん思い思いに色を塗り、飾りつけ。なかには改造する人も。作品のなかから未来の乗り物が生まれるかも!?



一番人気は高速貨物船★

2010年度・下半期のイベントカレンダー

古文書講座

10月2,16,30日,11月6,20日,12月4日 14時～16時

京都に本店を持つ町飛脚・京屋の甲府店に関する史料をテキストに、古文書の読み方や歴史的背景などについて楽しく学んでいきます。

ごてんやまファミリーフェスタ

10月23日 13時半～16時

品川区立御殿山小学校父母と先生の会などが主催する御殿山地区の親子祭りに参加します。

クリスマスサンタクロース映画会

12月18日 時間未定

プレゼントを「運ぶ」サンタクロースの映画を上映します。対象：幼児～小学生

昨年度の学校見学

2009年度の学校団体入館者データ

小学校：18校・1,118名／中学校：33校・489名

その他学校：28校・482名

2009年度全体入館者数：9,093名

当館では学校団体見学の場合、先生方のご要望を伺い、映像上映、ワークシートを使った展示室の見学、「運びくらべ」（写真参照）や運ぶ仕事の制服着用などの各種体験を組み合わせたプランをご案内しています（表1参照）。全体的には現代の物流を中心としたプランがほとんどですが、「昔の暮らし」がテーマの体験中心の見学もありました（「運びくらべ」、ふろしきバック作りなどを実施）。また、物流現場の具体的な様子（貨物専用ジェット機からの貨物の取りおろしや、貨物駅に到着するコンテナ列車、大型コンテナ船とガントリークレーン、宅配便のターミナルなど）をご紹介した導入映像がわかりやすいとご好評をいただき、ご覧になる学校が増えています。

昨年度は見学内容の充実をはかるため、ワークシートの一部改良を行いました。ワークシートは展示室ごとに3種類ずつ用意していますが（表2参照）、このうち地下1階「現代の物流」展示室の調べ学習用を改良。物流が生活に密着した仕事であることや、輸送手段ごとの特徴をよりはっきりと捉えていただけるようにしました。

ワークシートのご利用状況は、1階では以前同様展示品カードが、地下1階では改良版のシートが多く利用されました。全体的に「展示を見て考える」というスタイルが多くなっています。また、解説記入済みのシートをふりかえり学習用として併用する学校もありました。これらのワークシートはウェブサイトでご覧いただくことができます。

陸海空の物流ターミナルジオラマ模型



（表1）昨年度の一般的な見学スケジュール

	1組	2組
20分	導入・物流に関する映像上映（2階）	
35分	昔の運ぶ道具体験 ↓ 物流の歴史展示室を見学（1階）	現代の物流展示室を見学（地下1階）
35分	現代の物流展示室を見学（地下1階）	昔の運ぶ道具体験 ↓ 物流の歴史展示室を見学（1階）
30分	昼食（2階）	

※見学時間は2時間以上にすることも可能です。体験では、環境問題との関連で、体験プログラム「ふろしきでバッグを作ろう」（所要時間20分～）を組み込む学校も増えています。



（表2）ワークシートの種類

1階	展示品カード	興味をもった資料をじっくり観察して記入
	物流の歴史（記入版）	物流の移り変わりについて主に解説を聞きながら取り組む
	物流の歴史（解説版）	上記の解説記入済みのもの
地下1階	現代の物流（調べ学習用）	展示をみて手がかりをさがし取り組む *2009年度改良版
	現代の物流（記入版）	陸海空の物流ターミナルについて主に解説を聞きながら取り組む
	現代の物流（解説版）	上記の解説記入済みのもの

展示図録販売中！

これまで開催した特別展の展示解説図録を販売しています。

通信販売も承っておりますのでお気軽にお問い合わせください。

【販売図録】

『收藏資料展 京都馬借／鉄道錦絵コレクション』（200円）、

『横浜浮世絵に見る 近代物流事始』（300円）、

『宅扱 昭和はじめの宅配便』（400円）、

『昔の荷物ミニ図鑑』（400円）、『企業が写した昭和の風景』（400円）、

『図説・川の上の近代—通運丸と関東の川蒸気船交通史—』（600円）、

『物流博物館の收藏資料～日本通運(株)コレクションから～』（400円）



物流博物館のご案内

物流博物館へのアクセス



電車 ●品川駅(JR.京浜急行)下車…徒歩7分
高輪台駅(都営浅草線)下車…徒歩7分
バス ●品川駅前高輪口バス乗り場3番 都営バス 品93乗車(目黒駅方面行)
Grand Prince Hotel Shinjuku 下車…徒歩1分

所在地 〒108-0074 東京都港区高輪4-7-15 Tel 03-3280-1616 Fax 03-3280-4385 <http://www.lmuse.or.jp> 開館時間 午前10時～午後5時
休館日 毎週月曜日(但し月曜日が祝日・振替休日の場合はその翌日)、毎月第4火曜日、祝日の翌日(土日を除く)、年末年始
入館料 小中学生：100円(土曜日無料) 高校生以上：200円 ※学校関係の団体は入館料が免除になります。